

北欧のデンマークと北米のカナダは互いに隣国である。デンマーク領グリーンランド、カナダ・エルクミア両島は北極圏のネアズ海峡を挟んで隣接している。狭い所では約30キロしか離れていない。その海峡のほぼ中央に位置するハンス島は約1.3平方キロの岩島だ。両国は1973年、海上境界線について合意した後もこの無人島の領有権では譲らず、係争が続いてきた。

カナダ軍は84年、島に上陸し、



# さあ、「戦争」終結に乾杯

kin-gon

## 金言

小倉 孝保

国旗を立てた。島を離れる際、自国産ウイスキーのボトルを埋め、「ようこそカナダへ」と書いた看板を立てた。

これに怒ったデンマークはグリーンランド担当相が、島を訪れ国旗を立て、国産蒸留酒シュナップスを埋めた。看板は「ようこそデンマークへ」に替えた。

その後、両国の軍や政治家がヘルコプターなどで上陸を繰り返す、その度に自国産アルコールを置いて帰った。そのため対立は「ウイスキー戦争」と呼ばれてきた。

近年、地球の温暖化で北極圏の水が解け、周辺海域は航路としての価値を高めている。大型船の運航が可能となり、海底鉱物や水産

物など資源面でも重要性を増してきた。

両国は2018年、「ウイスキー戦争」終結を目指して合同作業部会を作り、話し合いを続けた。自然にできた岩の裂け目に沿って、島を分割することで合意したのは先週である。

半世紀に及ぶ交渉では、時に摩擦もあったが、両国とも常にユーモアを忘れなかった。軍事的緊張を回避した対立は「最も礼儀正しい領土紛争」と呼ばれた。

話し合いを通して相手の立場を理解し、友好を深める。こんな「紛争」なら悪くないと思わせる。人類の知恵の結晶である。

オタワで開かれた合意文書の調印式には、カナダのメラニー・シヨリー、デンマークのイエッペ・コフォズ両外相らが出席した。記者会見でシヨリー外相はこう述べた。「世界の安全は今、危機にさらされています。国際法に従い対立を解決することが、これまでになく重要です」

コフォズ外相も「紛争を平和的に解決する意思を示しました。今、求められているのは国際秩序の尊重です」と語っている。両者の念頭にあったのは、もちろんロシアのウクライナ侵攻である。

調印式で両外相はお国自慢のアルコールボトルを交換し、笑顔をみせた。どちらの酒がうまいか。領土問題では互いに譲歩した両者も、ここでは一ミリも譲れなかったに違いない。

(論説委員)